

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	交通安全施設整備事業	会計	一般会計	事業No.	653	施策順No.	42-001
		事業種別	政策・その他	予算科目	2-1-12-10-1		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	危機管理・交通安全対策室		
施策	42 交通安全の推進		事業期間	開始	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	地域からの整備要望箇所						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない		
	誰、何に	地域からの整備要望箇所数	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度			
	意図	交通の安全と円滑化を図る								
	対象をどう変えるか	整備件数	103	131	135	76	154		80	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		要望に基づき、交通安全施設整備ができた								
		具体的な数値で表すと(対象指標)		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)		19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		整備件数		103	131	135	76	154	80	A

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	市道の交通の安全を確保するため、道路利用者の立場に立った歩道及び路側帯の整備、道路標識及び標示の整備、道路反射鏡・防護柵等の設置整備を推進し、交通事故の防止と安全で快適な道路環境の整備改善を図る。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 道路標識(看板) 2 区画線 3 止まれ 文字等 4 防護柵 5 道路反射鏡 6 その他	1 設置か所数 2 整備距離(カ所) 3 設置か所数 4 整備距離(カ所) 5 整備か所数 6 整備か所数	1 10カ所 2 150m(2カ所) 3 10カ所 4 300m(15カ所) 5 80カ所 6 10カ所
23年度実施計画	1 道路標識(看板) 2 区画線 3 止まれ 文字等 4 防護柵 5 道路反射鏡 6 その他	1 設置か所数 2 整備距離(カ所) 3 設置か所数 4 整備距離(カ所) 5 整備か所数 6 整備か所数	1 10カ所 2 150m(2カ所) 3 10カ所 4 300m(15カ所) 5 80カ所 6 10カ所

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
	一般財源		22,400	22,395	18,536	
	計 (A)		22,400	22,395	18,536	
	正規職員所要時間			400		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計 (B)			1,430		
	トータルコスト A+B			23,825		

4 事業に対する市民や議会の意見

交通安全施設は市民生活に直結するものであり、その関心は高く、新設の要望も多数寄せられている。また、市民要望は、議会にも取り上げられている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞り者、財産について、交通事故の被害を軽減する	施策の成果指標又はムトス指標	交通事故死傷者数 人身交通事故発生件数
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・同業務の特性から、継続的な施策の展開が交通死亡事故と人身交通事故の減少に大きく貢献している。		
	後期に向けた課題	・一貫性ではその効果が期待できないことから、継続した取り組みが必要である。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・各地区のまちづくり委員会から地域の現状と整備要望をリアルタイムに吸い上げ、その必要性和効果の検証に努めている。		
	後期に向けた課題	・必要性和事故防止効果の検証を徹底し、実効ある事業推進が求められる。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・地区要望から、緊急性の高い案件について優先させている。		
	後期に向けた課題	・製品の選択にあたっては、安価で耐久制を考慮した選択に努める必要がある。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・受益者は市民及び市内滞り者であり、身近な安全施設整備は各まちづくり委員会の負担で対応している。 ・交通安全対策には行政が積極的に関わる必要がある。		
	後期に向けた課題	・特になし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①まちづくり委員会に主体性を持たせた実態把握と整備要望を取りまとめが事故防止への効果を上げている。 ②とりまとめた要望か所の緊急性・必要性を検討し対応してきた。		
	後期に向けた課題	・特になし		
全体を通じて	4年間の振り返り	・地域住民の要望の把握とそれに対する適宜適切な施設整備が、人身交通事故の減少等に顕著に反映されている。		
	後期に向けた課題	・引き続き継続対応していく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------